

# 研究実施のお知らせ

2023年11月9日 ver.1.1

## 研究課題名

Catheter-over-needle と self-coiling カテーテルを使用した持続大腿三角ブロック：  
カテーテル先端位置の逸脱頻度に関する後ろ向き検討

## 研究の対象となる方

2023年3月から2023年10月の間に島根大学医学部附属病院において、人工膝関節全置換術を受けられた方

## 研究の目的・意義

人工膝関節全置換術後の疼痛は強いため、末梢神経ブロックを使用して術後の鎮痛を行っています。末梢神経ブロックにはいくつかの種類がありますが、特に人工膝関節全置換術の術後鎮痛には持続大腿三角ブロック（または持続内転筋管ブロック）が使用されてきました。この方法は、細い管（カテーテル）を神経の近くに留置して局所麻酔薬を持続的に投与します。しかしこのようなカテーテルは、手術の間や術後のリハビリテーション等の間に自然に先端の位置がずれてしまい、鎮痛効果が損なわれてしまうことがあります。今回の研究では、この持続大腿三角ブロックのカテーテルの先端位置が術後にずれてしまうことがどの程度あるのか、その頻度を調査したいと考えています。また、先端位置がずれてしまった場合にどの程度鎮痛効果に違いがあったか、異なるカテーテルでは先端位置のずれの頻度が違うのかどうかについても検討したいと思います。

今回の研究で、持続大腿三角ブロックの注意すべき点（位置のずれの頻度、使用するカテーテル等による違い）を明らかにし、より効果的な持続大腿三角ブロックの方法を検討したいと考えています。これにより、今後同じ手術を受ける患者さんにとってより良い術後鎮痛を提供できることを期待しています。

## 研究の方法

対象になる方のカルテから以下のデータを収集します。

- 1) 術前の情報：年齢、性別、身長、体重、ASA-PS (American Society of Anesthesiologists physical status: 麻酔リスク分類)、併存疾患、術前使用薬剤
- 2) 手術時の情報：術側、病名、手術術式、手術時間、麻酔時間
- 3) 末梢神経ブロックに関する情報：使用したカテーテル、カテーテル留置長、プロ

ックに要した時間

- 4) 術後の情報（術直後、術後 1 日目、術後 2 日目）：持続大腿三角ブロックカテーテルの先端位置のずれの有無、薬液漏れ・カテーテル刺入部からの出血の有無、疼痛スコア（安静時・運動時）、術後鎮痛薬の使用状況（使用薬剤・時間・回数）、術後歩行状況、合併症の有無

この研究に関するデータ等は、個人を特定できないように記号化した番号により管理します。あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。また、お名前などのリストは収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。外部への持ち出しは行いません。

### 研究の期間

2023 年 12 月 21 日～2024 年 8 月

### 研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

### 研究組織

この研究は次の機関が行います。  
島根大学医学部麻酔学講座

研究責任者：  
島根大学医学部附属病院麻酔科 青山由紀

### 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024 年 6 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

### 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用

してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院麻酔科 青山由紀

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2295 FAX 0853-20-2292